

JP163 沖縄島沿岸離島（おきなわしまえんがんりとう）

沖縄県：名護市、今帰仁村、本部町、恩納村、うるま市、渡嘉敷村、国頭村

位置 N 26° 39′ E 128° 02′

面積 100ha

環境構成【島嶼／岩礁／浅海域】

ベニアジサシ、エリグロアジサシが集団で繁殖する沖縄本島周辺の大小さまざまな小島や岩礁。繁殖地は年による変化が大きい。

ベニアジサシは、大きなコロニーをつくることが多く、慶伊瀬島、平安座島、浜比嘉島、屋我地島、水納島、勝連半島、備瀬崎などで安定的に観察されている。エリグロアジサシは、ベニアジサシに比べて、営巣数、生息数とも少ないが生息を確認した地域は多い。



写真提供：山城正邦

選定理由

A4i

ベニアジサシ・エリグロアジサシ

保護指定

サイトの大部分（50～90％）に法的な担保がある。

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（屋我地）、県指定鳥獣保護区（チービシ）、国立公園（慶良間諸島）、都道府県立自然公園（沖縄海岸国定公園）、自然環境保全地域

保全への脅威

- ・ベニアジサシの繁殖コロニーがあり、釣り人やマリンレジャーによる繁殖島や岩礁への上陸は最大の脅威となっている。（特に、繁殖初期の段階では人為的攪乱によりコロニーが解消されやすい。繁殖活動の遅延は台風の被害をより受ける可能性がある。）
- ・ハシブトガラスによる捕食（以前は生息していなかったハシブトガラスが、沖縄島中南部にも定着しており、コロニーに入り込む事例も散見される。カラスの個体数は増加傾向にあり、アジサシ類の繁殖地が今以上に狙われる可能性が高い。）
- ・観光地化の影響（アジサシ類の繁殖小島が観光地化している所が多い。過去には大きな影響が出ていたが、場所によっては共存を選択したところもある。現在報告は少ないが、今

後はカメラマンのエコツアー（単独を含む）による上陸被害が増える懸念がある。）

- ・チービシ鳥獣保護区（慶伊瀬島）においては、特別保護区のあるナガンヌ島は人の利用エリアのコントロールができていますが、神山島やクエフ島は立ち入りが制限されているものの、沖縄島からの観光業者が繁殖期に無断で観光客を入島させている。管理ができていないため繁殖への影響が出ていると思われる。観光客の入島は鳥獣保護区指定を機に見られなくなっていたが近年徐々に増え始めている。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
減っている

- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞

環境省が行っているモニタリングサイト 1000 の海鳥調査が 3 年に 1 回行われている。調査は山階鳥類研究所が行っている。資料は環境省のホームページで調査報告書が公開されている。チービシ鳥獣保護区は沖縄県自然保護・緑化推進課、環境省那覇事務所、慶良間自然保護官事務所。屋我地鳥獣保護区は環境省やんばる野生生物保護センター。沖縄野鳥の会でも不定期ながら調査を行っている。

- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある

詳細、具体例等：個体数が減少傾向にある中、近年の台風大型化による接近は繁殖への影響を無視できない状況にある。ここ数年は台風に起因する繁殖成功率の低下が目立つ。2015 年は豊見城市の岡波島でベニアジサシのコロニーが初めて確認された。推定営巣数は 300 巣（平成 27 年度 モニタリングサイト 1000 海鳥調査報告書 環境省、2016）慶伊瀬島に於いては鳥獣保護区指定や保全活動により、繁殖個体数は回復傾向にある。2017 年はベニアジサシ 3300 羽、エリグロアジサシ 150 羽、マミジロアジサシ 53 羽を確認した。

- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
悪い（40～70%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

*環境省やんばる野生生物保護センターは、国指定の屋我地鳥獣保護区で 2014 年ベニアジサシの繁殖が行われなかったことを受け、ベニアジサシ保全のための新たな取り組みを 2015 年度よりスタートさせた。

沖縄県は 2012 年 11 月に慶伊瀬島（チービシ環礁）をチービシ鳥獣保護区に指定した。3 島からなるチービシ環礁の内ナガンヌ島の東側と西側に特別保護区を設け立ち入りを規制している。島中央はマリレジャーの拠点となっており多くの観光客

が繁殖シーズンに入島する。チービシはかつて国内最大のベニアジサシの繁殖地であったが、マリンレジャーが盛んに行われるようになって個体数が減少し2002年には繁殖しなかった経緯がある。ナガンヌ島では渡嘉敷村の指定を受けた観光業者1社が経営しており、島内への入島ルートを規制するとともに、観光客にアジサシ類保全への理解を促す案内を行っている。

一時期は沖縄島から多数のレジャー船が観光客を連れてチービシを訪れていたが、クエフ島や神山島への上陸はほとんど見られなくなった。鳥獣保護区指定以降関係行政や観光業者、沖縄野鳥の会などで協議会を再結成し保全のための検討を行っている。

南城市のコマカ島は民間の知念海洋レジャーセンターが島への送迎と島内での管理運営を行っている。以前は周囲800mの島中をどこでも人が入ることができたが、現在はロープなどで立ち入り区域を制限している。保護区指定はされていない。

保全活動

- ・環境管理：実施者（環境省やんばる野生生物保護センター）

内容：屋我地鳥獣保護区においては2014年度に保護区指定以降初めてベニアジサシが繁殖しなかった事態を踏まえ保全活動が実施されている。

2012年に沖縄県鳥獣保護区に指定されたチービシ（慶伊瀬島）は、チービシアジサシ類保全連絡会議を立ち上げ毎年保全策の検討会議、観光業者への勉強会、現地調査を行っている。

2015年度からはNPO法人どうぶつたちの病院沖縄が参加し調査を行った。

- ・外来種のコントロール：実施者（環境省やんばる野生生物保護センター）

内容：屋我地鳥獣保護区アジサシ類繁殖地の岩礁でドバトが営巣しており、繁殖エリアの競合やハヤブサの定着などの問題が報告されている。今後ドバト等のコントロールが行われると思われる。

- ・モニタリング調査：実施者（環境省やんばる野生生物保護センター、環境省那覇事務所、沖縄県自然保護・緑化推進課、山階鳥類研究所、NPO法人どうぶつたちの病院沖縄、沖縄野鳥の会）

内容：

- ・モニタリングサイト1000海鳥調査
- ・屋我地鳥獣保護区鳥獣調査
- ・チービシ鳥獣保護区鳥獣保護員パトロール調査
- ・チービシ鳥獣保護区アジサシ類繁殖調査

IBAサイトの保全に関する、地域のグループ

- ・NPO法人どうぶつたちの病院沖縄

・沖縄野鳥の会

見られる鳥

ベニアジサシ、エリグロアジサシの繁殖地

夏鳥	コアジサシ、マミジロアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ
-----------	--------------------------------

*沖縄島沿岸離島の周辺海域は、マリーン IBA (Marine Important Bird and Biodiversity Areas : 海鳥の重要生息地) に選定されている

詳しくはこちら <http://www.wbsj.org/activity/conservation/habitat-conservation/miba/>



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCO, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community